
聖夜の悪霊？

あべかわきなこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

聖夜の悪霊？

【著者名】

ZZマーク

N7953Z

【作者名】

あべかわきなこ

【あらすじ】

クリスマスイヴの悲劇が精霊使いの少女を襲う？

「そ、む、い、ですわ―――― バリしてよつとおもひてこんな日
にこの冬一番の寒波が来るんですのッ!」

クリスマスを明日に控えた、ある夜。

浮き足立つた街の喧騒とは随分かけ離れた山の上のキャンパスの、
時計台の下で叫ぶ少女がいた。

緩やかにウェーブがかつた長い髪に、真っ白なロングコート。そ
して丁寧に磨かれた皮製のブーツ。

装いもさることながら、その顔立ちもメリハリが効いていて、派
手過ぎることはないものの全体的に豪奢な印象を与える少女だった。
ただ1点、彼女の印象とそぐわないものがあるとすれば、彼女が
肩に背負っている黒くて無骨な筒状のケースだ。

「風香は雨女だかんなー、天候にはあんまり恵まれてないんじゃ
ね？」

「おー、雪が降ってきただよー」

そんな彼女の周りには2点ほど、小さな灯りが灯っている。
よくよく眼を凝らせばそれは単なる点ではなく、小さな小さな人
影だった。

まるで小人のようなそれらは、彼女が従える小さな妖だ。
ちらちらと降ってきた粉雪を追いかけるように、2人はくるくる
と空中で回転し始める。

「……ふん、イヴに初雪だなんて。こんな日にまで仕事に勤しむ私
に対しての当てつけですか?」

白い息を吐きながら、彼女は寒空を見上げてそう毒づいた。

「んなこと言つたつてどうせ予定なんかなかつたくせにー」

「だよー。おまけにお友達にも最近恋人が出来たとかで相手にしてもらえなかつたんだよー？」

宙を舞う妖2人に図星を指され、少女は顔を赤くした。

「う、うるさいですわッ！ 聖夜に予定がなくて何が悪いんですの！？」

「別に悪かーないけど、なあ？」

金髪の活潑そうな妖は、傍らのおつとりした妖に苦笑いを投げた。「風香もいい加減恋人の一人でも作つたらいいだよ。顔だけならモテる顔してるだよ？」

「『だけなら』ってなんですの『だけなら』って！？ まるで私の性格に問題があるようじやないの！」

せつかくのモテ顔を台無しにしながら吼える彼女を、2人は可笑しげに眺める。

「風香はお嬢さん育ちで無駄に貞操観念強いからなー」

「僕たちだって風香の高潔さは分かつてるだよー？」 でも今のご時勢それだけじゃあ駄目なんだよー」

「だな！ ただでさえ少子化なんだから女からもガツツリアピールしてかないと」

「目指せ肉食系女子だよー」

「だまらつしやい！－！」

少女は顔を真っ赤にしてこの世の終わりのごとく高い声で叫んだ。
「……そもそもなんなんですの最近のこの風潮は！？ この時期に1人でいたらそんなに惨めですか！？ ええい忌々しい！ いつそ聖夜なんて爆発してしまえばいいんですねッ！－！」

「ドォン！－！」

……と、爆発音が真上で聞こえたのは彼女がそう言い放つたのとほぼ同時だった。

「な、なんだあ！？」「

「ほんとに爆発しただよ！？ 風香、いつの間に言霊を操れるよう

になつただよ！？

「そ、そんなこと出来ませんわよ！ つて何か落ちてきますわよ！？」

宙を見上げて慌ててその場を飛び退く3人。間髪いれず、そこに何かが降り立つた。

『アアアアアアー！』

咆哮を上げたのは、黒い異形だった。形は、からうじて人型と言える。が、赤く光る眼と裂けんばかりの口から覗く鋭い牙はおおよそ俗に言つ化け物のものだった。

「出ましたわね聖夜の悪霊！！」

そんな異形を前にして、彼女 神宮寺風香は怖氣づくことなく相対した。

「こいつかなり負のオーラ漂つてんぞ」「氣をつけるだよ。屬が読めないだよ」

警戒を促す妖たちに領きで返し、彼女は手際よく例の黒いケースを開いた。

筒状のそれから現れたのは、細身の剣 レイピアだ。

「金斬！」

「あいよッ」

彼女が妖の名を呼ぶと、金髪の彼は威勢よく返事をしてレイピアに吸収された。途端、その刃は目に見えて鋭さを増す。

「真つ二つにして差し上げますわ！」

そう言い放ち、異形の肩口に斬りかかる風香。

が

「硬ツ！？」

抜群の切れ味を誇るはずの剣が全く動かない。

とつさに飛び退くとレイピアから金斬が飛び出した。

「なんだあのカタブツ！？ 力チコチだぞ！？」

「つ、斬れないなら押し潰すまでですわ！ 十蔵！」

「わかつてるだよ！」「

名を呼ばれたもう一人の彼は金斬と交代するようにレイピアに飛び込む。

途端、細身の剣は瞬く間に鈍器に変わった。が、あまりにもそれは大きすぎて華奢な少女には振り上げられそうもない。

事実、風香の腕力だけでそれを持ち上げることは不可能だった。

しかし

「地靈、手を貸しなさい！！」

彼女がそう叫ぶと、それに応えるように地面が光りだす。

そして

「はああああああ！！」

華奢な体躯の少女が身の丈以上の鈍器を振り上げるといつ漫画みたいな画えが実現した。

ズウン、と。

ものすごい地響きを轟かせながら、鈍器は振り下ろされる。

一体どれほどの重量だったのだらう、黒い異形は叫ぶ間もなくペシャンこに押しつぶされた。

「ふう、この手だけは使いたくありませんでしたのに」

画的に、と額を拭いながら彼女は溜め息をついた。それを見て金斬はくし笑う。

「とか言いつつなんだかんだでよく使うよな、十蔵のハンマー」

『風香はなんだかんだで「リ押し系が性に合つてるだよ』

「そんなことありませんわっ……！？」

彼女が反論しようとしたその時、地にめり込んだハンマーの底から黒い霧が溢れ出す。

「まだやる気ですかー？」

「まずい風香、退け！」

金斬が叫ぶも、黒い霞

金輪か叫ぶも
黒い霧は既に彼女の身体を捉えるよ／＼に包み込み
始めている。

「ツ水靈！！
弾けなさい！！」

彼女が叫ぶと、大気中の水蒸

彼女が叫ぶと、大気中の水蒸気が大粒となって盛大に弾けた。それに驚いたかのように黒い霧はビクリと彼女から一瞬離れる。

が

見シケタ

黒い霧は瞬く間にその輪郭を明確にし、より人型へと形を変え

「」

あ、と、いふ間に人間の男性の姿をとった

黒い、濡羽色の髪。

雪の光で白くなりつつあるあたりの景色からは随分と遠く同じく漆黒の一月に絶望して、心がのよひな冬もやがて

しかしどこか熱を持っていた。

まるで待ち望んでいた何かを見つけたかのよつて。

「純なる混沌。ああ、矛盾に満ちた美しい魂だ」

男は恍惚とそう言い放つて、躊躇つことなく田の前の彼女を抱擁した。

「あ、キャアアアアー!? なんなんですかなんなんですかこの痴漢ー

突然の事態

突然の事態はハ「ぐく」た風呂は思わず両手で頭を突き飛ばせ、と
したが、逆にその手をすつと絡めとられてしまった。

「？」

強く握られるのかと思いきや、優しく手を包まれて思わず息を呑む。

漆黒の彼は柔軟に、しかし不敵に笑つてこう言つた。

「俺を鎮められるのはお前のその魂だけ。永久にこの身を、わが命をお前に捧げ」

聞く人が聞けば、それが守護精霊契約の言葉である」とは明白だつた。

人間にとつて、精霊という人智を超える存在にその言葉を言わしめることは非常にまれ高き」とであり、羨望の対象ともなるべき有り難いことである。

しかし。

「嫌ですわ――――――！」

風香はこの世の終わりの「とく叫んだ。

それも、当然といえば当然だ。

「あつはつは！『クリスマスに恋人いないゼコンチクショー』的な負の感情が固まつて生まれた精霊に憑かれるたあ風香も相当アレだなー！」

金斬が盛大に腹を抱えて笑い出す。

「笑い事じやありませんわッ！」　いい加減に離しなさい……

「嫌だ。絶対に離さない」

「！？　なんなんですかー？」

真顔で言われて思わず顔を赤らめる風香。

「相当気に入られたみたいだよー風香」

「嬉しくないですわーーー！」

「いいじゃねーか、いわばお前の分身でもあるわけだし」

金斬がそう言うと男も頷いた。

「言つただろう、お前にしか俺を鎮めることは出来ない。お前が俺を受け入れなければ俺は再び悪霊と化すだろ」

「なッ！」

「安心しろ、風香。お前が一生涯一人身でも憐れんだりしねーから
「むしろ守護精霊が一生面倒見てくれるだよ、よかつただよ」

うんうんと頷く2人の妖。それを見て安堵のような表情を

浮かべる男。

「勝手に話を進めないでーーー！」

なんて最悪なクリスマス

なんですかーーー！」

日付を変える時計の音と共に彼女の叫び声が轟いた。

(後書き)

一応季節ネタでイバラヒメのスピンドルオフです。

イバラヒメ本編では出てこない風番ですが「ミシードナイトブレイカー」の番外編でちりりと出ておました(どうでもいい)ことですが。

とりあえずメリークリスマス。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7953z/>

聖夜の悪霊？

2011年12月25日16時52分発行